

横浜市立品濃小学校

平成30年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
○ 子どもたちも教職員も自分らしさを発揮して、生き生きと活動できる学校づくりを推進します。	
・ 子ども一人ひとりがよさを発揮し、意欲的・創造的に学びながら学力向上を図ります。	
・ 教職員が高い志をもち、協力して組織的に教育活動を展開します。	
・ 保護者・地域との相互理解・協力を図り、信頼に応える開かれた学校づくりをします。	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	自分の考えを表現する楽しさを積み重ねることで豊かな表現力を育てる。 また、多様な考えを理解する力を育て、学び合いを深める授業を目指す。	①実験や観察、体験的な活動を通して実感のともなった理解が得られる授業展開を行う。経験したことを自分の言葉で表現し伝える時間を設定する。 ②友だちの考えを認め合いながら、学習を深めていくことができるよう意見交流の場面を大切にする。

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

全体的にはどの学年も横浜市の平均を上回っており、特に「知識・理解」での正答率が高い。家庭による協力もあり、学習に対する基本的な姿勢や習慣が身に付いていること、自分の考えをきちんともった上で、少人数での話し合いを挟んで全体で話し合うような工夫を続けてきたこと、一人ひとりの状況を把握し、丁寧に指導してきたことが要因として考えられる。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：どの観点でも市の平均を上回っており、特に「知識・理解」の差が大きい。
- 算数科：どの観点でも市の平均を上回っており、特に「知識・理解」「技能」が高い。
- 社会科：どの観点も市平均を上回っており、特に図や表などから必要な情報を読み取る力が高い。
- 理科：「知識・理解」面が市の平均を大きく上回っており、「思考・判断・表現」も伸びてきた。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて）

平成25年度から29年度の過去5年間の経年変化を分析してみると、年度や学年による変動はあるが、学校全体としては似た傾向が見られる。「知識・理解」は市の平均よりも高めであり、算数はどの観点でも安定して市の平均を上回っている。市平均より少し高い値にとどまっていた「思考・判断」の力を伸ばすことに重点を置いて、教材や指導法の工夫を重ねてきたことにより、近年少しずつ伸びてきている。

意識調査では「学校の授業は分かりやすいですか」に対して、「はい」という回答がどの学年でも多く、「勉強が好き」という回答との相関が高く、学力層も高くなっている傾向が見られる。今後も児童理解の工夫や指導方法の改善につながるような研究・研修を重ねていきたい。

3 平成30年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いに慣れるため、まず対話をする場面を位置付ける。
- 分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話するように指導する。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもてるように指導する。

2 学年

- 生活科等で、体験を通して自分の生活について考えたことを報告する文章や説明する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに話し合いをする場面を位置付ける。
- 大切なことが何かを考えながら聞いたり関連した情報を提供したりしながら話し合うように指導する。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えを明確に意識できるように指導する。

3 学年

- 自分のことだけでなく、相手のことを考えて行動や発言ができるよう指導する。
- 社会科で自分の住んでいるまちの特徴を見つけ、地域とのつながりを深めていける活動を行う。
- あいさつや返事、「ありがとう」「ごめんね」など、基本的な生活習慣を身につけられるよう、指導する。

4 学年

- 社会・算数・理科等で中心点を明確にして説明する文章、記録・報告する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに話し合いをする場面を計画的に位置付ける。
- 別の視点に立った意見を出したり、相手の考えを取り入れて自分の考えを述べたりする話し合いができるように指導する。
- 順序を付けたり関連付けたりして考える学習を計画的に位置付ける。

5 学年

- 説明文や物語文の書き方の巧みさについて捉えそれを生かす場面を位置付ける。
- 自分の思いや考え、願いを相手に伝えるように工夫して表現する活動を行うとともに、考えを深め、まとめていくような話し合いをする場面を位置付ける。
- 関連付けたり分類・整理したりして考える学習と振り返りを計画的に位置付ける。

6 学年

- 今まで身に付けた様々な文章を書く力を自覚的に生かすことができるよう、相手や目的を明確にした活動を組むとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 相手の立場に配慮し、違った視点や発想を認め合うような話し合いができるように指導する。
- 関連付けたり、分類・整理したり、多面的に考えたりする学習と振り返りを計画的に位置付ける。

個別支援学級

- 保護者との情報交換を積極的に行い、一人ひとりの個性や教育的ニーズの把握に努める。
- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、発達段階に応じた適切なコミュニケーションの仕方を身につけられるよう、基本的な伝え方を練習する機会を繰り返し置付ける。
- 各学年の取組も参考にしながら、子どもの発達段階に応じて必要な取組や交流を計画的に行う。